

平成23年 7月25日

役員会会議次第

日本測量者連盟

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議 題
 - (1) 平成22年度事業報告及び決算報告
 - (2) 平成23年事業計画（案）及び予算（案）
 - (3) 役員の改選
 - (4) 国際会議出席報告
 - (5) その他
4. 閉 会

(資料 1)

平成22年度 事業報告

日本測量者連盟

年 月 日	内 容
平成22年4月11日～16日	F I G総会 (シドニー) 出席者 西 修二郎 (総幹事)
平成22年7月26日	平成21年度 監事監査
平成22年7月29日	役員会 平成21年度事業報告・決算報告 平成22年度事業計画 (案)・予算 (案) 役員等の改選 その他
平成22年7月29日	活動状況報告会 ①『2010シドニー総会 [全体概要]』 報告者 西 修二郎 (総幹事) ②『2010シドニー総会 [COM7 関連]』 報告者 藤 木 政 和
平成22年7月29日	日本測量者連盟編集委員会
平成22年9月5日～12日	第7部会総会『デジタル地籍地図』(チェコ) 出席者 海 津 優 (第7分科会委員長)
平成22年9月13日～20日	第6分科会国際会議『インドア測位』(フェリッヒ) 出席者 岡 本 修 (第6分科会委員長)
平成22年11月19日	講演会『欧州デジタル地籍の現状』 講 師 海 津 優 (第7分科会委員長)
平成23年3月9日	日本測量者連盟編集委員会

(資料 2)

平成22年度決算報告

日本測量者連盟

(自 平成22年4月1日至 平成23年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

科目	決算額	摘要
	(B)	
団体会費	1,388,000	国建協10万, 研修センター5万, 全測連30万,
法人会費	140,000	測専教10万, 水路協22.5万, 日測協30万,
個人会費	80,000	測技協11.3万, 地調協5万, 日調連15万(9団体)
預金利息	3,338	法人会費 28口(1口5,000円)
前年度繰越	1,265,370	個人会費 40口(1口2,000円)
合計	2,876,708	

2. 支出の部

科目	決算額	摘要
	(B)	
消耗品	0	
旅費	617,333	FIG総会・国際シンポジウム(チェコ・チューリッヒ)
郵送料	47,890	請求書・会議案内発送・郵便振替手数料他
会議費	28,666	役員会・編集会議等
編集費	97,000	JFS・HP掲載原稿料
印刷費	0	
事務委託費	300,000	日本測量協会へ(事務所使用料を含む)
FIG会費	223,133	FIG本部への納入金
分科会費	0	分科会活動費
研究開発費	0	
資料収集費	0	資料収集他
雑費	24,000	「測量の日」グッズ代金
予備費	0	
合計	1,338,022	

次年度繰越金

収入	支出	繰越金
2,876,708	1,338,022	1,538,686

(資料 3)

平成23年度 事業計画(案)

日本測量者連盟

年 月 日	内 容
平成23年5月13日	講演会 ①『インドア測位とは何か』 講 師 岡 本 修 (第6分科会委員長) ②『東日本大震災の教訓』 講 師 村 井 俊 治 (会 長)
平成23年5月18日～22日	F I G総会 (マラケシュ) 出席者 西 修 二 郎 (総幹事)
平成23年7月21日	平成22年度 監事監査
平成23年7月25日	役員会 平成22年度事業報告・決算報告 平成23年度事業計画(案)・予算(案) 役員等の改選 F I G総会 (マラケシュ) 等の報告 その他
平成24年3月	日本測量者連盟編集委員会
未 定	F I G国際会議出席

(資料 4)

平成23年度 予算(案)

日本測量者連盟

(自 平成23年4月1日至 平成24年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

科目	平成22年度	平成23年度	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
団体会費	1,388,000	1,388,000	0	国建協10万, 研修センター5万, 全測連30万, 測専教10万, 水路協22.5万, 日測協30万, 測技協11.3万, 地調協5万, 日調連15万 (9団体) 法人会費 25口(1口5,000円) 個人会費 39口(1口2,000円)
法人会費	130,000	125,000	△ 5,000	
個人会費	86,000	78,000	△ 8,000	
預金利息	4,649	4,649	0	
前年度繰越	1,265,370	1,538,686	273,316	
合計	2,874,019	3,134,335	260,316	

2. 支出の部

科目	平成22年度	平成23年度	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
消耗品	10,000	10,000	0	文房具・封筒 その他
旅費	600,000	900,000	300,000	FIG総会(マラケシュ)・国際シンポジウム
郵送料	40,000	50,000	10,000	請求書・会議案内発送・郵便振替手数料他
会議費	30,000	30,000	0	役員会・編集会議等
編集費	100,000	100,000	0	JFS・HP掲載原稿料
印刷費	0	0	0	
事務委託費	300,000	300,000	0	日本測量協会へ支払(事務所使用料を含む)
FIG会費	230,000	230,000	0	FIG本部への納入金
分科会費	200,000	200,000	0	分科会活動費
資料収集費	80,000	80,000	0	資料収集他
雑費	100,000	50,000	△ 50,000	
予備費	1,184,019	1,184,335	316	
合計	2,874,019	3,134,335	260,316	

3. 特別積立金

科目	前年度積立金	繰越金	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
積立金	2,000,000	2,000,000	0	東京都民銀行定期預金

役員等の交替について (案)

日本測量者連盟
(順不同・敬称略)

【顧問】

- おお たけ かず ひこ
◎ 大竹 一彦 【前(社)日本地図調製業協会 会長】
- た なか ひろ あき
◎ 田中 宏明 【国土地理院企画部測量指導課長】
(前任者：河瀬 和重)

【副会長】

- もと しま よう すけ
◎ 本島 庸介 【(社)全国測量設計業協会連合会 会長】
(前任者：大竹 一彦)

【理事】

- おお つか き いち
◎ 大塚 冀一 【(社)日本地図調製業協会 会長】
(前任者：本島 庸介)
- せ と しま まさ ひろ
◎ 瀬戸島 正博 【(社)日本測量協会 専務理事】
(前任者：小野 邦彦)
- たけ うち や そ じ
◎ 竹内 八十二 【(社)日本土地家屋調査士会連合会 会長】
(前任者：松岡 直武)

【監事】

- よこ た こう じ
◎ 横田 耕治 【(社)全国測量設計業協会連合会 事務局長】
(前任者：加納 正敏)
- いわ さき しょう いち
◎ 岩崎 昇一 【(社)日本地図調製業協会 事務局長】
(前任者：奥山 修一)

【編集委員】

各分科会委員長は編集委員を兼ねる

J F S 役員等名簿

平成23年 7月25日現在

(順不同・敬称略)

名 誉 会 長	原 田 美 道	元日本測量者連盟会長
顧 問	井 上 英 二	元(社)地図協会理事長
〃	金 窪 敏 知	元(財)日本地図センター理事長
〃	田 中 宏 明	国土地理院企画部測量指導課長
〃	中 川 一 郎	元(社)日本測量協会会長
〃	大 竹 一 彦	前(社)日本地図調製業協会会長
参 与	星 埜 由 尚	(社)日本測量協会副会長
〃	大 嶋 太 市	法政大学名誉教授
会 長	村 井 俊 治	(社)日本測量協会会長
副 会 長	本 島 庸 介	(社)全国測量設計業協会連合会会長
理 事	上 條 勝 也	(財)測量専門教育センター会長
〃	丸 山 弘 通	(社)国際建設技術協会常務理事
〃	瀬戸島 政 博	(社)日本測量協会専務理事
〃	佐々木 稔	(財)日本水路協会常務理事
〃	岡 野 眞 久	(財)全国建設研修センター副理事長
〃	大 塚 冀 一	(社)日本地図調製業協会会長
〃	谷 岡 誠 一	(財)日本測量調査技術協会理事
〃	竹 内 八十二	日本土地家屋調査士会連合会会長
監 事	横 田 耕 治	(社)全国測量設計業協会理事・事務局長
〃	岩 崎 昇 一	(社)日本地図調製業協会理事・事務局長

第1分科会委員長	木村幸吉	サベイ技術士事務所代表
第2分科会委員長	馬場義男	(財) 測量専門教育センター理事
第3分科会委員長	平田更一	(社) 日本測量協会 GIS研究所主任研究員
第4分科会委員長	金澤輝雄	(財) 日本水路協会審議役
第5分科会委員長	塚原弘一	(株) パスコ生産改革本部理事
第6分科会委員長	岡本修	茨城工業高等専門学校 電子制御工学科准教授
第7分科会委員長	海津優	(財) 日本建設情報総合センター システム高度化研究部長
第8分科会委員長	谷下雅義	中央大学 理工学部都市環境学科教授
第9分科会委員長	海津優	(財) 日本建設情報総合センター システム高度化研究部長
第10分科会委員長	佐田達典	日本大学 理工学部社会交通工学科教授

編集委員長	西修二郎	(社) 日本測量協会常任参与
-------	------	----------------

編集委員	各分科会委員長	
------	---------	--

総幹事	西修二郎	(社) 日本測量協会常任参与
-----	------	----------------

事務局長	高橋谷造	(社) 日本測量協会理事・事務局長
------	------	-------------------

局員	木下信也	(社) 日本測量協会総務部
----	------	---------------

FIG第7部会年次総会（カルロヴィヴァリ）報告

海津 優

会議は2010年9月6日から10日まで、カルロヴィヴァリ市のテルマルホテルにおいて開催された。会議には32カ国から約60名が参加、11のセッションで57件の発表があり、活発な議論が行われた。9日の午後には国際オープンセミナー「デジタル地籍図」が開かれ、FIG参加者のほかに、チェコおよびスロバキア両国の技術者が参加して11件の発表が行われた。

第5セッション（オープンソース）では、オープンソースについて言及する場合いつも言われるポイントであるが、コストダウンと、ユーザーの参加による品質の向上があったとの報告があった。一方、この報告に関して、オープンソースはコストフリーなわけではないとの指摘があり、内部に専門のソフトウェア部隊を抱える等の対応が不可欠で、かなりの費用がかかることが強調された。また、システムが州や国によって異なることから、モジュール化して部分ごとに共通化したいとの意見が表明された。この際、LADMを参照して標準化したコアプロセスを抽出してゆくことが有効である、また作成されるツールはスケーラブルであるべきであるとの意見が表明された。

公的土地の管理に関するセッションでは、国によってシステムが違い、国がオーナーで借地権が権利である場合から、国も所有者の一人である自由市場の国まで幅があるのでコメントが多くあり、次回で特別セッションをやってさらに話をしてはどうかとの提案があった。

国際オープンセミナーでは「デジタル地籍図」をテーマに11編の論文が発表された。チェコでは地籍のデジタル化が進められており、各国のデジタル化の状況、目指すもの、空間データ基盤との関係、GISでの利用等について議論が行われた。チェコにあっては1993年に、ハンガリーでは1972年に登記と地籍が統一されたとの説明が興味深かった。この分野で先進的なことで名高い、ドイツのババリア州からの報告では、登記と地籍が每晚9時にデータの同期を行い、相互に矛盾のない形で維持されていること、地籍の公開が進んでいるが、権利部は法により保護されていること等、興味深い報告があった。

各国の地籍の状況についての報告があり、民間からトリンプル社、団体としてOAS（米州機構）から発表があった。また、教育に関して地籍分野の学生が世界的に減少しているようだと観測に対して、測定が自動化される中で、土地の専門家として、より高い立場で発言できることを若い人に知ってもらうことの必要性が語られたが、一部の国では統一がなされているし、地籍データベースのみ共有している国もあるが、法地籍と課税地籍の2重管理は多くの国々で未だ解消されない課題であるようであった。

最後のセッションでは、3次元地籍の動向などについて報告があった後、この4年間の第7部会の活動について、オスコ部会長から包括的なとりまとめが報告された。会議の概要とオスコ部会長の総括はFIG Com. 7のウェブサイトで見ることができる。

国際会議 2010 IPIN の参加報告

第 6 分科会委員長 岡本 修（茨城工業高等専門学校）

開催日程 2010 年 9 月 15 ～ 17 日

開催場所 スイス チューリッヒ チューリッヒ工科大学サイエンスシティ

会議の概要

2010 International Conference on Indoor Positioning and Indoor Navigation (2010IPIN) は、インドア測位をメインテーマとする初の国際会議である。47 国から 430 名の参加者があり、24 のテクニカルセッションにおいてポスターセッション、デモンストレーションを含めて 215 件の発表があった。今回がインドア測位で初の国際会議であるため、研究発表に先立ち応用分野および解決手段の両面から研究分野を分類し整理することで、テクニカルセッションの発表テーマとの関係が示された。応用分野からの要求に基づき整理されたインドア測位の分類では、測量分野はミリメートルの測位精度を広範囲までカバーする必要がある厳しい応用分野であることが示され、より高精度が要求されるがインドアの狭い範囲をカバーするだけでよい産業機械分野、サブメートルの精度でよいが屋外の広範囲をカバーする必要があるマンナビゲーションや位置情報サービス分野等に分類された。解決手段により整理されたインドア測位の分類では、ミリメートルの測位精度を屋外の広範囲でカバーする Geodetic を中心に、より高い精度を実現する光学系、精度の緩い方向に超音波や UWB、無線 LAN や RFID、高感度 GPS や IMU 等が分類された。このような分類に基づき、各セッションでは活発な議論がなされた。

会議に参加して

国際会議の名称になったインドア測位・ナビゲーション分野は、屋外測位をカバーする衛星測位と比較して明確なソリューションが存在せず、様々な解決手段が提案されている。屋外から屋内へのシームレスな測位を実現する上でも、屋外の衛星測位の測位精度や使い勝手に匹敵するインドア測位技術の確立が待望されている。この機運が盛り上がってきているタイミングでの開催に、世界中から様々な研究分野の研究者が集まった。会議では無線 LAN や UWB、超音波の電波強度や伝搬時間を利用した測距による測位、IMU を利用した慣性航法によるインドア測位の発表が多く、インドアの環境モデルを利用したパーティクル・フィルタの適用も多く見られた。また、屋外での衛星測位とのハイブリッドによって、アウトドアからインドアへシームレスな切り替えを意識した実験結果が多く示されていた。

これまで様々な分野において行われていた個別に取り組まれていたインドア測位の研究が、この会議において一同に介し体系化されたことで、新たな研究分野としての一步を歩み始めたと感じた。今回はシーズ先行の研究が大勢を占めていたが、様々な応用分野からの要求が示されたことで、今後はニーズ志向の研究も盛んになると感じられた。



図 1 会場となったチューリッヒ工科大学サイエンス・シティ



図 2 発表の様子

FIGの会議への招待

日本測量者連盟 西 修二郎

今年のFIG(国際測量者連盟)の年次総会が2011年5月18日-22日、モロッコのマラケシュで行われた。FIGは測量教育から地籍、GIS、測地、不動産評価と測量のすべての分野にわたる技術発表と測量技術者の交流を目的に、国際会議を毎年開催している。日本では認知度が低いですが、皆さんに是非知っていただき、ひとりでも多くの参加者が現れることを期待したい。今年の開催地マラケシュは世界遺産にも登録されている北アフリカでも最大の旧市街(メディナ)をもち、遠くにアトラス山脈を望みピンク色に統一された町並みが美しい都市である。

FIGは全世界の測量者の利益を代表する国際的な組織である。全世界100カ国以上に会員をもち、日本測量者連盟はその会員になっている。年に1回会員が集まる会議が総会である。FIGは4年毎に会長以下執行部を選出しており、今年は昨年選ばれた新執行部が運営方針を発表する総会であった。

運営方針は、作業計画2011-2014と呼ばれている。

執行部が4年間の運営方針として打ち出したのは、**“Engaging the Challenge: Enhancing the Relevance”**という言葉である。これは“測量者の地位向上に挑戦し、測量の有用性を高める”ということであろうか。この標語の下に以下のことを進めるという計画である。

- ・測量者の地位や評判が高まるように努力する。
- ・国連や世界銀行と協力してグローバルな挑戦を続けていく。
- ・測量の重要性を高め、測量が、環境や経済といった社会にとって有用なものであることを広める。

さらにFIG会員の獲得、特に南アメリカと中央アメリカ、カリブ海地域の会員獲得やFIGの宣伝強化、特に



会議の会場

HPの強化やFIG年報の継続、評議会と委員会活動の周知に努めていくことが盛り込まれていた。

総会と並行して行われた技術講演会には90カ国、1500名を

超える参加者があった。

技術講演には500の論文が提出され、第1分科会から第10分科会まで10の委員会毎に技術講演が行われ

た。論文は今年から査読論文も受け付けており、通常の学会発表と同レベルの発表と評価されるので、是非学会で発表されている方にはFIGでの発表をお勧めしたい。

講演内容は、分科会毎に地籍、応用測量、都市計画、不動産管理、測地、測量カリキュラムと分かれており、講演テーマは例えば、基準系、土地行政、地籍、都市計画、変形監視、測量カリキュラム、土地登録、リモートセンシング、測地学、空間情報、レーザースキャナー、水路測量、不動産管理、応用測量とおおよそ測量のすべての分野を網羅している。測量会社の技術者の方には是非発表してもらいたいと強く感じた次第である。

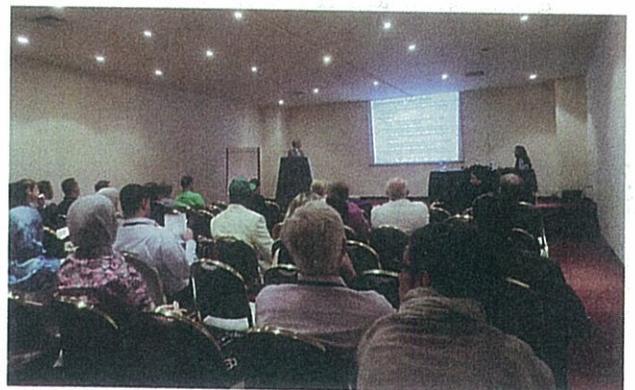
また大会ではこの他に展示会も開催されており、グローバルな測量機器や最新のソフトの情報にも触れられる。

このFIGの会議は毎年行われており、来年はイタリアローマでの開催である。測量会社の技術担当役員の方、若い技術者に会社の宣伝を兼ねて是非一度参加させてみていただきたい。

FIGについては、日本測量者連盟(JFS)のHPをご覧ください。



総会の様子



技術講演の様子(バスコ塚原弘一氏の発表)

平成 22 年度の HP 掲載原稿

- 1) FIG2010 シドニー報告 : 西 修二郎
- 2) FIG 2010 シドニー COM7 報告 : 剣持 智美
- 3) 土地管理情報の共有について(I) : 海津 優
- 4) イラン国立地図センター訪問 : 藤原 智
- 5) 土地管理情報の共有について(II) : 海津 優
- 6) FIG 第 7 部会年次総会報告 : 海津 優
- 7) 日本測量協会山の会 : 星埜 由尚
- 8) 国際会議 2010 IPIN の参加報告 : 岡本 修
- 9) 測量機器の ISO と JIS : 高橋 時雄
- 10) FIG 第 8 部会報告 : 谷下 雅義
- 11) FIG2011 マラケシュへの招待 : FIG 会長
- 12) インドア測位とは何か : 岡本 修
- 13) 東日本大震災の教訓 : 村井 俊治
- 14) FIG2011 マラケシュ : 西 修二郎
- 15) FIG に参加して : 塚原 弘一
- 16) FIG に参加して : 出口 知敬
- 17) 第 3 分科会活動報告 : 平田 更一

この他に 22 年度から

ドクター村井の“新養生訓” : 村井 俊治
を毎月連載